

平成29年12月11日

## 平成29年度懸賞論文

「『オリンピック・パラリンピック東京大会』の安全安心な開催のための対策を考える」選考結果

(6編、敬称略 各賞50音順 年齢は応募時)

選考結果(敬称略)

(公財)公共政策調査会が警察庁及び読売新聞社の後援の下、警察大学校警察政策研究センターとの共催で、平成29年度事業の一環として実施した「『オリンピック・パラリンピック東京大会』の安全安心な開催のための対策を考える」をテーマとする懸賞論文募集に対して、33編の応募があり、12月11日の選考委員会において厳正なる審査の結果、次のとおり入選作が決定した。

[最優秀賞] 1編

安全エネルギーと外国人への安心配慮で実現する安全・安心オリンピック

南口 虎太郎(みなみぐち ことろう) 男 18歳 大阪府吹田市

関西学院千里国際高等部3年

[優秀賞] 2編

東京オリンピックからノーマライゼーションを考える～すべての人が活躍できる社会を目指して～

渡橋 恭子(おりはし のりこ) 女 24歳 広島県東広島市

広島大学大学院生

「おもてなし」の実現に向けたサイバーセキュリティ対策

田邊 智之(たなべ ともゆき) 男 39歳 兵庫県

警察官(兵庫県警察)

[佳作] 2編

2020年は国際テロとの戦いである～オリンピックは、なぜ狙われるのか、テロリストの視点でオリンピックを考える～

上江洲 聡(うえず さとし) 男 47歳 東京都港区

皇宮護衛官

学校教育を通じたオリンピック・パラリンピック東京大会の安全安心な開催を目指した対策

後藤 喜朗(ごとう よしろう) 男 53歳 岐阜県岐阜市

小学校校長

[奨励賞] 1編

AED大国日本を目指して

堀江 風花(ほりえ ふうか) 女 18歳 大阪府泉南郡田尻町

智辯学園和歌山高校3年